

## 国語科学習指導案

### 【題材名】

「思い出」

日 時	平成 26 年 2 月 14 日 (金) 2 校時		
対 象	国語科 A 2 グループ 5 人	場 所	中学部 1 年 2 組教室
指導者	高野 博美		

### 【題材における生徒の実態】

本グループは、知的障害学級に在籍する 1 年生 2 人 (男子), 2 年生 3 人 (男子 2 人, 女子 1 人), 計 5 人で、1 人の生徒を除いて中学部から本校に入学してきた生徒たちで構成された学習グループである。5 人の生徒は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 2 章第 1 節第 2 款第 1 「国語」の段階と照らし合わせたときに、小学部内容の 3 段階を理解できており、中学部内容をより深めることが必要な生徒たちである。

生徒たちは、文を書くことにつながる学習として、これまでに名詞や動詞、代名詞について考えてどのようなものがあるか発表したり、句読点とかぎ (「」) の意味やそれらを表記する位置について理解を深めたりしてきた。また、文を書くための注意点 (「いつ・どこで・誰が・何を・どうする・なぜ (どんな目的で) ・感じたこと (気持ち)」を文の中に表現すること) についても学習をしている。さらに、実際に授業でも短い文を書いたり、5 人とも宿題で日記に取り組んだりしている。

これまでの取組から、文を書くことに慣れてきており、文を書くための注意点を学習しているものの、読点の打ち方が十分理解できずに、文節ごとに打つ生徒がいたり、読む相手のことを考えずに、ただ書きたいことを書き並べるだけの生徒がいたりする。また、自分の気持ちを表す言葉が「楽しかったです。」と同じ表現の繰り返しになったり、自分がしたことを話すことはできるが文に表すときに戸惑いを感じたりする生徒もいる。

### 【題材の意義・価値】

以上のような生徒の実態を踏まえ、文を書くための注意点を踏まえて丁寧に書いたり、自分が体験したことや感じたことを 3～5 文程度で表現したりすることができるように、文を書く活動が中心となる本題材を設定した。これまでの国語で学習した内容を踏まえ、生徒が自分の感じたことや考えたことを表現する意欲や態度を育てることをとおして、将来の社会生活に必要なコミュニケーション能力を身に付けることができると考える。

本題材では、一年間の学校生活を振り返って自分の体験したことを文に表すことで、生徒たちが文章化しやすいと思われる。どのようなことがあったか思い出すことが難しい場合でも、写真からヒントを得て、過去のことを思い出すこともできる。また、指導者も学校生活の中で生徒たちの様子を見たり、担任と連携を図り様子を聞いたりしてきているので、文を書く際に戸惑ったときでも指導しやすい内容となっている。同時に、繰り返しの学習が必要な生徒に対して文を書く題材を設定することで、句点を打つ箇所や同じ表現の繰り返しなど、これまで学習してきたことを振り返る機会をつくることができ、文を書くための注意点について再確認することができる。

## 【ねらい】

そこで本題材では、一年間の学校生活を振り返り、それを文に表すことを通して、文を書くための注意点に気を付けて文を書いたり、感じたことをいろいろな言葉で表現したりできるようにする。また、感想を書くことができる生徒は、更に「今後どうしたい」など、発展的な感想を書くことができるようにする。会話文を入れることができる思い出には、かぎ（「」）を使った指導も合わせて行うようにする。ただ、文を書くだけでなく自分の書いた文を見直して発表し、友達や教師から賞賛をもらうことで、今後の文を書くことへの意欲へとつなげられるようにしたい。

## 【指導観】

教材・教具については、句読点やかぎ（「」）を打つ位置、書き始めは一マス空けるなど、作文の書き方を習得するために、全員マス目のある用紙で文章を書くようにする。用紙は、生徒の実態に応じてマスの大きさが違うものを用意したい。さらに、原稿用紙の上部には写真も準備し、その時の出来事や気持ちを思い出しながら書くことができるようにする。

また、自分が書いた文を発表する際には、句読点に気を付け、ゆっくり読むように促し、聞き取りやすい読み方をするように指導したい。自分が書いた文を読み返し、文を書くための注意点を捉えて書いているか自己評価できる場も設定するようにしたい。

## 【展望】

このような学習を通して、文を書く力や聞いて理解する力が高まることで、今後、体験したことをまとめる活動や日記を書く活動において、経験したことをもっと詳しく書いたり、自分の気持ちの表現を広げたり、豊かな文を書いたりできるようになっていくものと考えている。さらには、分かりやすい文を書くことが他者を意識し、相手に伝える力が向上していくと考えている。

## 【生徒の実態】

生徒 観点	A	B
聞く・話す	<ul style="list-style-type: none"><li>興味や関心のある話題については集中して聞くことができる。また、教師間の会話を聞いていたり、話す相手に集中していないようでも内容を聞き取っていたりすることも多い。</li><li>空想の話をすることもあるが、体験したことを説明したり、冗談を理解して聞いたり、話したりできる。語彙力があり話す力は非常に高い。</li><li>自分の気持ちを話す際には、教師の「だれと?」、「どうして?」などの言葉掛けに対し、しっかり答えることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>集中力に課題はあるが、話を聞いて理解し記憶する力をもっている。</li><li>自閉症の障害特性から突発的な質問をされると回答に困り、会話が途切れることはあるが、簡単な会話を楽しむことができる。</li><li>興味がある話題など、事実や体験したことを説明することができる。</li><li>毎回「楽しかった」と同じ感想が多く、他の感情表現はあまり見られない。自分の気持ちを述べるのが苦手である。</li></ul>

読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>句点で切らずに次の文を読もうとしていたが、気を付けるようになってきている。言葉掛けをすると、間を空けて読むことができる。また、感情を込めた読み方ができるようになっている。</li> <li>言語理解能力があり、話の内容を大体把握することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情を込めた読み方をすることは難しいが、止まらずに一人で音読できるようになっている。また、教師からの言葉掛けで、間の取り方に注意して読むことができる。</li> <li>簡単な文章であれば、内容を理解して質問に答えることができる。</li> </ul>
書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>早く書こうとすると焦ってしまい、枠からはみ出して書くことが多いが、その都度、言葉掛けをすれば、ゆっくり、丁寧に書くことができる。</li> <li>体験したことや自分の気持ちを文に表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧に文字を書くことを意識し過ぎて、時間が足りなくなることはあるが、書く内容が決まっていれば、一定の時間内に書くことができる。</li> <li>選択肢や言葉掛けなどの支援があれば、一人で文を書くことができる。</li> </ul>
本題材での学習の様子 興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どこで、何をどうする、なぜそう感じたのか」と言葉掛けをすると、順序立てて、より詳しく文を自由に書くことができる。</li> <li>句読点を付ける場所については、しっかり学習できているが、文字は、気を付けるように言葉掛けをしなければ、雑に書いたり、マス目や枠からはみ出して書いたりする。</li> <li>思い出の写真を自分で選んだことで、文を書くことには意欲的な様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表情の絵カードを使い、気持ちを表す言葉を知ることができている。</li> <li>自分で書きたい内容の写真を選んだことで、興味をもって取り組み、「どこで、何をどうしたのか」など、ワークシートや教師の言葉掛けにより、順序立てて文を書くことができるようになっている。</li> <li>読点を付ける場所を間違えることがある。</li> </ul>
学級担任との 共通理解事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を大きく雑に書いてしまう傾向があるので、日記指導などではマス目のある用紙を使用して、丁寧に書くことを意識するようにする。</li> <li>話し手に集中することが難しいので、注目を促す言葉掛けをしてから話をするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想の発表では、「楽しかった」と同じ表現の繰り返しが多くなるため、一日の出来事や感想を伝える場面など、感情の言葉を学ぶ機会を設定し、「楽しかった」以外の言葉を引き出すようにする。</li> <li>文字を書く際、時間を意識するように、目標時間を設定し、丁寧にかつ速く書くことができるよう言葉掛けをする。</li> </ul>

## 【題材目標】

### 1 全体目標

- ・ 一年間の学校生活を振り返って、自分が体験したことやそのときの気持ちを思い出して書くことができる。
- ・ 友達の発表を聞いたり、相手が聞き取りやすい速さで発表したりすることができる。

### 2 個人目標

生徒	国語科における「自立と社会参加をめざした姿」	国語科の三つの観点における本題材での目標
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 枠内にゆっくり丁寧に文字を書くようにする。誰でも読むことができるような字を書くことができる。</li><li>・ 自分の思いを相手に明確に伝えるとき、人の話を聞く態度を身に付ける。</li></ul>	<p>【聞く・話す】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 友達が話すときは集中して聞き、発表の内容を理解して、質問に答えることができる。</li></ul> <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の書いた文を、句読点に気を付けて読むことができる。</li></ul> <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 一年間の学校生活を振り返って、自分が体験したことを思い出して書いたり、そのときの気持ちを考えて書いたりすることができる。</li><li>・ 文字を丁寧に書くことができる。</li></ul>
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 尋ねられたことに答えたり、相手に用件を伝えたりすることができる。</li><li>・ 今日の出来事や自分の気持ちや考えを、自分の言葉で発表したり、文章に書いたりできる。</li></ul>	<p>【聞く・話す】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 友達が話すときは集中して聞き、発表の内容を理解して、質問に答えることができる。</li></ul> <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 句読点では間を空けるなど、相手に聞き取りやすい速さで読むことができる。</li></ul> <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 一年間の学校生活を振り返って、自分が体験したことを思い出し、状況に合った気持ちを選んで書くことができる。</li><li>・ 目標時間内に書き終えることができる。</li></ul>

【指導計画（総時間8時間）】

次	主な学習活動	時間	資料・準備
一	1 1, 2学期の学習（文を書くことに関わる内容）の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名詞, 動詞, 代名詞, 句読点, かぎ（「」）</li> <li>・ 文を書くための注意点（5W1H, 感じたこと）</li> </ul> 2 気持ちを表す言葉探しをする。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉カード</li> <li>・ 文字指導板</li> <li>・ 学習計画表</li> <li>・ 画用紙（短冊）</li> <li>・ 油性ペン</li> </ul>
二	3 1年間の思い出を文章にする。 (1) 写真を見て振り返り, 内容を言葉で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのときの状況を相手に伝わるように説明する。</li> <li>・ そのとき感じた気持ちを伝える。</li> <li>・ どの思い出を文章にするか, 写真を選ぶ。</li> </ul> (2) 思い出を文章で表し発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の思い出を作文用紙に書き, 発表する。</li> <li>・ 2学期の思い出を作文用紙に書き, 発表する。</li> <li>・ 3学期の思い出を作文用紙に書き, 発表する。</li> </ul>	本時 (4/4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TV, パソコン</li> <li>・ ケーブル</li> <li>・ 思い出の写真</li> <li>・ 気持ちカード</li> <li>・ 写真一覧</li> <li>・ 思い出作文用紙</li> <li>・ 書画カメラ</li> <li>・ 自己評価用紙</li> <li>・ 学習計画表</li> </ul>
三	4 文集を作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 添削されたところを清書する。</li> <li>・ これまで書いた文章を順番に綴り文集を作る。</li> <li>・ 1年間の自分の一番の思い出を発表する。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思い出作文用紙</li> <li>・ 文集材料（表紙, 製本テープ）</li> </ul>

【本時の学習】

1 目標

(1) 全体目標

- ・ 体験したことや書きたいことを相手に伝えられるように, 丁寧に書くことができる。
- ・ 自分が書いた文章を発表したり, 友達の発表を聞いたりすることができる。

(2) 個人目標

	目 標	指導の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思い出を振り返り, 感じたことの原因を含めて, 文を丁寧に書くことができる。</li> <li>・ 姿勢に気を付けながら, 友達の発表を集中して聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書画カメラで自分の書いた文章を写して発表するため, 文字を丁寧に書くことや書き始める際には, ゆっくり書くことを指導する。</li> <li>・ 理由を交えて書くことができるように, なぜそう感じたのか教師が質問する。</li> <li>・ 発表者に注目できるように, しっかり相手やテレビ画面を見るように促す。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちカードを手掛かりにして, 気持ちを表現したり, その理由を書いたりすることができる。</li> <li>・ 相手や画面をしっかり見ながら, 友達の発表を集中して聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのときどう感じたのか問い掛け, まず気持ちを言葉に表わすようにし, 内容を整理してから書くように促す。</li> <li>・ 感じたことを言葉で表すことが難しい場合は, 気持ちカードを提示し, そのときの感情を選択できるようにする。</li> <li>・ 姿勢がくずれていた, 集中できていなかったりしたときは, 言葉掛けを行う。</li> </ul>

## 2 指導に当たって

本題材に入り、文を書くことに関する1・2学期の学習をまず復習したことで、文を書くための注意点（5W1Hや感じたことなど）を生徒たちは再確認できている。さらに、感想につながる気持ちを表す言葉について学習したことにより、言葉の広がりも出てきている。しかし、それらを踏まえて文章で表すまでには至っていない。また、指導後も読点の付け方が分からず文節ごとに打つ生徒がいたり、自分の気持ちを表す言葉を自分で選択できず、教師の言葉掛けがないと「楽しかった」と同じ表現の繰り返しになる生徒がいたり課題はそれぞれ異なる。

本時では、前時までの1、2学期の思い出を書いて発表する学習と同様に、3学期の思い出についても振り返り、文章に書いて発表する活動を設定する。繰り返しの学習になることから、授業の流れを生徒たち自身が把握しており、学習にスムーズに入ることができると思われる。本時では更に、前時までの学習活動において、それぞれ課題となった点を個人目標として掲げ、個人の課題を明確にし、達成できるようにしたいと考えている。

中学部の今回の研究では、授業実践を通して、一人一人の生徒が「やればできる」と感じられる指導方法を明らかにするために、**子どもが力を発揮するための三点のポイント**を踏まえた授業づくりを進めている。

### 子どもが力を発揮するための三点のポイント

- 〈1〉 子どもの実態に合わせた段階的な指導を行い、学習活動への見通しをもてるようにする。
- 〈2〉 子どもが興味・関心をもち、主体的に取り組めるようにする。
- 〈3〉 学習の成果の確認や賞賛を工夫し、子どもが成功体験を得られやすくする。

**ポイント〈1〉**については、学習の見通しがもてるように、また自分が頑張ることへの意識を高められるように、導入では学習全体の目標に加えて、前時の振り返りで決定した個人目標を黒板に掲示する。個別の指導では、個々に応じて書いた文の読み直しをさせ、間違いがあったら訂正をするように促したり、文字を丁寧に書くよう言葉掛けしたりしたい。また、感想を書くことが苦手な生徒に対しては、教師とやり取りをする中で感じたことを、より詳しく書くことができるように指導を行う。さらに、早く書き進める生徒に対して、2枚目の作文用紙を準備するようにする。終末では、学習計画表を提示することで、次時への活動に見通しと意欲をもてるようにする。

**ポイント〈2〉**については、体験した出来事を思い出して書くことができるように、視覚的情報として作文用紙の上部には写真を準備する。発表の際は聞くだけでなく、書画カメラを使用し、友達が書いた文章を見て確認したり、自分で操作して楽しみながら活動したりするようにする。また、友達の発表を集中して聞くことができるように、話を聞くときの態度について確認をしたり、発表後には何が書いてあったかクイズを出すことを伝えたりするようにしたい。発表後には、文章を書くための注意点を踏まえて書いているか自分でチェックし、自己評価に主体的に取り組めるようにする。

**ポイント〈3〉**については、自分が書いた文章に自信をもったり、達成感を感じたりすることができるように、発表後に個人目標と照らし合わせて教師が評価し、できたことを賞賛したい。また、終末では、個人目標や自己評価用紙の項目を見ながら本時の学習を振り返ることで、言葉の評価だけでなく、○で自己評価ができるようにするとともに、生徒同士で相互評価できる場面を設定したい。

## 3 実際 ※別紙参照

#### 4 評価

##### (1) 全体評価

- ・ 体験したことや書きたいことを相手に伝えられるように、丁寧に書くことができたか。
- ・ 自分が書いた文章を発表したり、友達の発表を聞いたりすることができたか。

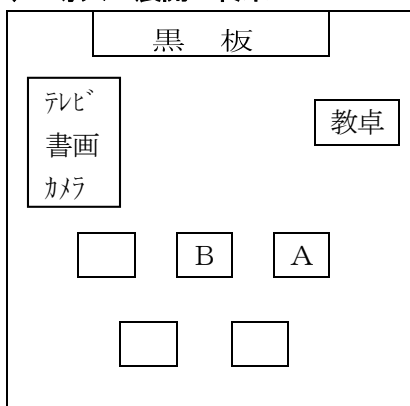
##### (2) 個人評価

	個人目標の評価	評価	指導の手立ての評価	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感じた理由を含めて、文を丁寧に書くことができたか。</li> <li>・ 姿勢に気を付けながら、友達の発表を集中して聞くことができたか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書画カメラで自分の書いた文を写して発表するため、文字を丁寧に書くことを伝えたり、書き始める際に、ゆっくり書くことを指導したりすることができたか。</li> <li>・ なぜそう感じたのか、理由を交えて書くことができるように、教師が質問することができたか。</li> <li>・ 発表者に注目できるように、しっかり相手やテレビ画面を見るように促すことができたか。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちカードを手掛かりにして、気持ちを表現したり、その理由を書いたりすることができたか。</li> <li>・ 相手や画面をしっかりと見ながら、友達の発表を集中して聞くことができたか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その時どう感じたのか問い掛け、まず気持ちを言葉に表わすようにし、内容を整理してから書くように促すことができたか。</li> <li>・ 感じたことを言葉で表すことが難しい場合は、気持ちカードを提示し、そのときの感情を選択できるようにすることができたか。</li> <li>・ 姿勢がくずれていたたり、集中できていなかったりしたときは、具体的な言葉掛けを行うことができたか。</li> </ul>	

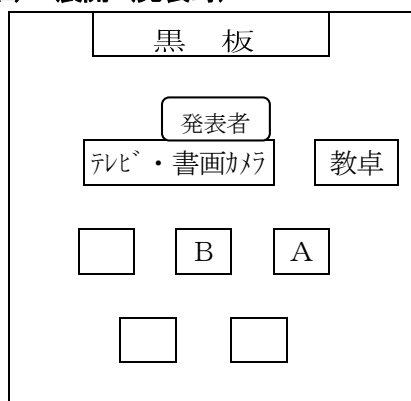
◎：十分達成できた ○：ほぼ達成できた △：達成できなかった

#### 5 場の設定





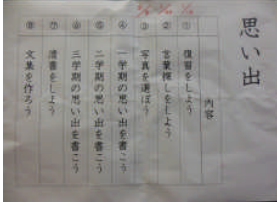
##### (1) 導入・展開・終末



(2) 展開（発表時）



6 教材・教具

書画カメラ	気持ちカード	思い出 作文用紙
		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が書いた作文用紙をテレビ画面に映し出す装置。</li> <li>評価する際に、全員で一斉に画面を見て確認することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちを表す言葉と顔の表情を一緒に表記したカード。</li> <li>気持ちを表す言葉の表現に迷ったとき、カードを選択することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が使用する作文用紙。</li> <li>そのときの出来事を思い出せるように、上部に写真を貼り付ける。下部にはマス目を入れた用紙を作成し、句読点の位置にも気を付けられるように工夫した。書く量やマス目の大きさなど、数種類の様式を準備し、生徒の実態が選択できるようにする。</li> </ul>
自己評価用紙	学習計画表	
		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自己評価する際に使用する。</li> <li>「5W1H」や「感じたこと」などを書いた文章を自分でチェックし振り返り、自己評価する。各学期ごとの評価を見比べられるように1枚にまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材「思い出」の学習計画を表に示したもの。</li> <li>生徒が毎時間の学習活動に対して見通しをもてるようにする。</li> </ul>	



3 実際 ※ 〈 〉の数字は、三点のポイントとの関連を表す。

過程	主な学習活動	指導・支援の留意点	
		A	B
導入 5分	1 始まりの挨拶をする。	・ 当番の言葉に注目を促すことにより、学習の始まりと姿勢を意識できるようにする。	
	2 前時の学習を振り返り、本時の学習内容を知る。 (学習のめあて) 「3学期の思い出を書こう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習計画表を提示し、本題材の全体の流れやこれまでの学習を確認し、本時で学習する内容が分かるようにする。〈1〉</li> <li>・ 学習のめあてをなるべく生徒の発言から引き出して作ることで、本時の学習に意欲と見通しをもたせるようにする。〈1〉</li> <li>・ 個人目標を掲示することで、自分が頑張ることへの意識を高め、意欲的に取り組むことができるようにする。〈1〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人目標を掲示することで、自分が頑張ることへの意識を高め、意欲的に取り組むことができるようにする。〈1〉</li> </ul>
展開 37分	3 写真を参考にしながら、文章書く。 (1) 書くときの注意点を確認する。 (2) 文章を書く。 (3) 書いた文章を読み直し、間違いがあったら訂正をする。 (4) 早く書き終わったら、2枚目に取り掛かる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「何がどうした(主述)」、「感じたこと(気持ち)」を入れて書くことができるように、書き始める前に留意点の確認をする。</li> <li>・ 体験した出来事を思い出して書くことができるように、視覚的情報として写真を準備する。〈2〉</li> <li>・ 書き始める前に文字をゆっくり丁寧に書くよう言葉掛けをする。〈1〉</li> <li>・ 「感じたこと」を書く際は、なぜそう感じたのか教師が問い掛けることで、理由を交えて文章を書くことができるようにする。〈1〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順序立てて文章を書くことができるように、実態に合わせたワークシートを用意する。〈1〉</li> <li>・ 「感じたこと」を書く際は、生徒が選んだ写真の内容を教師が問い掛けることで、気持ちを言葉に表し、その言葉を書くことができるようにする。〈1〉</li> </ul>
	4 自分が書いた文章を発表する。 ・ 発表するときの留意点を確認する。 *句読点では間を空けて読む。 *発表者の顔を見て、話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表の際は、生徒が書いた文章を書画カメラで写すことで、聞くだけでなく視覚的に確認できるようにしたり、楽しみながら活動したりするようにする。〈2〉</li> <li>・ 集中して友達の発表を聞くことができるように、聞く態度について話をしたり、発表後には何が書いてあったかクイズを出すことを伝えたりするようにする。〈2〉</li> <li>・ 友達の発表を聞くときは、集中できるようにしっかり相手やテレビ画面を見るように促す。</li> <li>・ 発表後には個人目標と照らし合わせて教師が評価し、できたことを賞賛することで、自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> <li>・ 文字を丁寧に書いているか確認したり、感じたことを詳しく書いているか確認したりし、できたことを賞賛することで自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姿勢がくずれていたり、集中できていなかったりしたときは、その都度、言葉掛けを行う。</li> <li>・ 感じたことを「楽しかった」だけでなく、他の言葉で表現したり、「～だから楽しかった」など詳しく書けたりしたか確認し、できたことを賞賛することで自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> </ul>
	5 自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く書き進める生徒に対しては、2枚目の原稿用紙を準備するようにする。〈1〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く書き進める生徒に対しては、2枚目の原稿用紙を準備するようにする。〈1〉</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表の際には、生徒が書いた文章を書画カメラで写すことで、聞くだけでなく視覚的に確認できるようにしたり、楽しみながら活動したりするようにする。〈2〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表の際には、生徒が書いた文章を書画カメラで写すことで、聞くだけでなく視覚的に確認できるようにしたり、楽しみながら活動したりするようにする。〈2〉</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中して友達の発表を聞くことができるように、聞く態度について話をしたり、発表後には何が書いてあったかクイズを出すことを伝えたりするようにする。〈2〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中して友達の発表を聞くことができるように、聞く態度について話をしたり、発表後には何が書いてあったかクイズを出すことを伝えたりするようにする。〈2〉</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の発表を聞くときは、集中できるようにしっかり相手やテレビ画面を見るように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の発表を聞くときは、集中できるようにしっかり相手やテレビ画面を見るように促す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表後には個人目標と照らし合わせて教師が評価し、できたことを賞賛することで、自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表後には個人目標と照らし合わせて教師が評価し、できたことを賞賛することで、自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字を丁寧に書いているか確認したり、感じたことを詳しく書いているか確認したりし、できたことを賞賛することで自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字を丁寧に書いているか確認したり、感じたことを詳しく書いているか確認したりし、できたことを賞賛することで自信や達成感を味わうことができるようにする。〈3〉</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注意点を踏まえて書いているか自分でチェックをすることで、自己評価ができるようにする。〈2〉〈3〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注意点を踏まえて書いているか自分でチェックをすることで、自己評価ができるようにする。〈2〉〈3〉</li> </ul>	
終末 3分	6 本時の学習を振り返り、次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人目標や自己評価用紙の項目を見ながら、本時の学習を振り返ることができるようにする。〈3〉</li> <li>・ 学習計画表を提示し、次時の活動が分かるようにするとともに、活動への見通しと意欲をもてるようにする。〈1〉</li> </ul>	
	7 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当番の言葉に注目を促し、学習の終わり姿勢を意識できるようにする。</li> </ul>	

## 自己評価シート 名前 ( )

## 1 学期の思い出

文の書き出しは 1マスあけていますか					
正しい場所に、。を 書いていますか <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>、</td><td>。</td></tr><tr><td>を</td><td></td></tr></table>	、	。	を		
、	。				
を					
「 」を使いましたか					
次の項目が文に 入っていますか					
いつ					
どこで					
だれが					
なにを					
どうする					
感じたこと					
なぜ					

## 2 学期の思い出

文の書き出しは 1マスあけていますか					
正しい場所に、。を 書いていますか <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>、</td><td>。</td></tr><tr><td>を</td><td></td></tr></table>	、	。	を		
、	。				
を					
「 」を使いましたか					
次の項目が文に 入っていますか					
いつ					
どこで					
だれが					
なにを					
どうする					
感じたこと					
なぜ					

## 3 学期の思い出

文の書き出しは 1マスあけていますか					
正しい場所に、。を 書いていますか <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>、</td><td>。</td></tr><tr><td>を</td><td></td></tr></table>	、	。	を		
、	。				
を					
「 」を使いましたか					
次の項目が文に 入っていますか					
いつ					
どこで					
だれが					
なにを					
どうする					
感じたこと					
なぜ					